

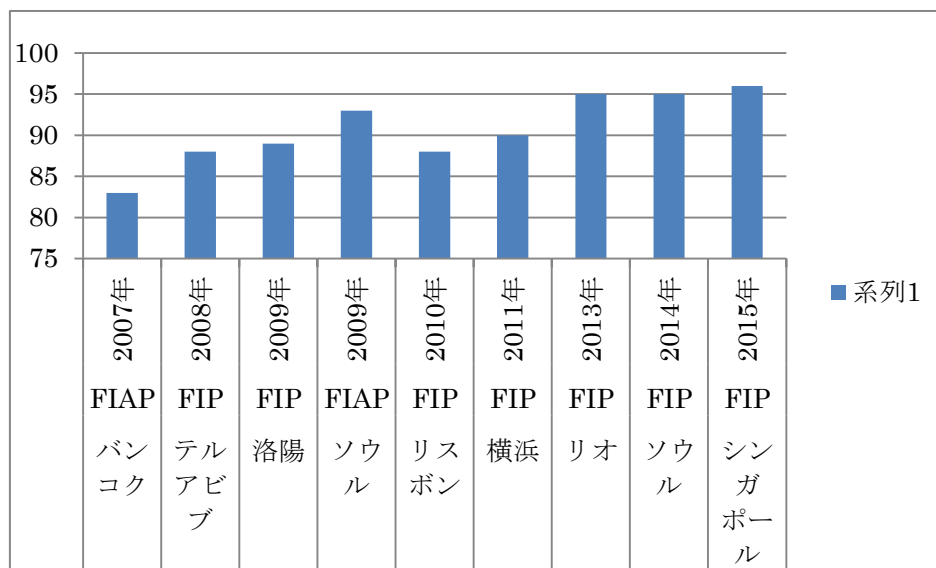
私のテーマティック郵趣戦略
(My Strategy for Thematic Philately)

大沼幸雄

はじめに

2004年のJAPEX(日本の国内展)において私のテーマティック作品「ベートーヴェンその生涯と遺産」(3フレーム)で初の「金賞」を頂きました。それから9年後のブラジリアーナ2013(FIP世界展)で、テーマティック部門では日本人初の「大金賞」を頂き、引き続き2014年ソウル、2015年シンガポールと合計3年連続で「大金賞」を頂きました。最初の作品を作って以来、約10年間で最終ゴールである3回の大金賞に到達致しました。

国際展における評点の推移表は下記の通りです。上下はありますが、2009年のFIAPを除くと傾向線としては徐々に上昇しているのが読み取れます。(第一図参照)



第一図：国際展における獲得点数推移表

国際展で勝つには、限られた資源(モノ、カネ、時間)をいかに有効に配分し最大の効果を挙げるかを考えねばなりません。それには戦略的思考が必須です。

本稿の目的は、いかに戦略的にアプローチしたかを説明し、テーマティック作品作りの参考にしていただくことです。エベレスト登頂にはいろいろなルートがあります。あくまでも一つのルートとして参考して頂ければと思います。

I 戦略

戦略思考の重要性はいくら強調しても強調しすぎることはありません。ここでは私の選択した3つの戦略(テーマ選定、1つのテーマにフォーカス、審美性)について紹介します。

第一に、戦略的テーマの選定

戦略の過ちは戦術ではカバーできません。テーマの戦略的選択が最も重要です。テーマティックでは、マテリアルの多様性、希少性が鍵となります。したがって、いかに質量共に多くのマテリアルのあるテーマを選ぶかが大切です。私がベートーヴェンを選んだ理由は、先ず、音楽切手の中ではベートーヴェンは、モーツァルトと並んで発行された切手の種類の多さでは双璧であることです。ではなぜベートーヴェンを選んだのかと言うと、彼の時代の方が、フランス革命、ナポレオン戦争など、はるかに起伏に富んでいるからです。わずか14才の年齢差で芸術家の生き方が大きく変わらざるを得ない時代です。したがってストーリー展開の余地が多く、題材もはるかに豊富になります。

「このような狭いテーマでは大金賞は難しい」との意見もありました。しかし時代的背景を取り込むことで、スコープが広がり戦略的に正しい選択であったとの自信を深めました。ソウルでは、審査員から時代背景を取り込んだのが独創的である、と絶賛されました。振り返るとこの手法が、作品に広さと深みを付けたような気がします。

テーマを選ぶなら「衣」「食」「住」など幅広いテーマを選ぶ方が、マテリアルの選択の余地が大きく有利になります。プレフィラテリーから現代までのスパンで希少なものを選べるからです。時代的に新しいテーマを選ぶと、クラシックな希少品が使えない不利さがありますので要注意です。特に上位になるにつれてネックが出ないようにテーマを選ぶ必要があります。

第二に、「一つのテーマにフォーカス」

一旦テーマを選んだら、そのテーマを徹底的に追いかけることです。私は、テーマをベートーヴェンに徹底的に絞りこんだので、ベートーヴェンに関する日本語の文献に加えて、著名な英文の文献（Thayer, Cooper, Solomon 等）を買い集めて索引を利用して関連部分を詳しく読みました。インターネット情報（ベートーヴェン・ハウス・ボンのアーカイブ等）も利用しました。マテリアルもこのテーマに関連するものを実際に用いる数の3倍から4倍程度を集中的に集めました。その中から自分の美的感性に合うマテリアルだけを選びました。時間・資金の制約がありますから、「二兎を追うものは一兎も得ず」のたとえ通り、一つのテーマに集中することが大切です。

第三に、「美的作品」を目指す。

テーマティック作品は、「画像とテキスト」の融合であり、調査力、ストーリー構成力、論理性、簡潔性、美的レイアウトが凝縮されたアートです。作品は美的でなければなりません。マテリアルの密度、マテリアルとテキストのバランス、PCを駆使しての整然としたレイアウトを工夫しました。テキストは3C（Clear, Correct, Concise）を原則としています。プレゼンテーションの点数は、わずか5点ですが、一見して美的なリーフが並ぶと、後光効果（HALO EFFECT—モレノ氏）が発揮され、他の項目もハイレベルに見える利点があります。

II. 情報収集

コンペで良い点数を得るには、審査員の考え方についての直接の情報を収集する必要があります。テーマティクには、標準的な教科書がありません。ほとんどは経験に学んできました。大金賞を得るまでに13回海外で出展しました。バンコク、テルアビブ、洛陽、ソウル、リオデジャネイロなど、遠近にかかわらず毎回、例外なく現場へ足を運びました。

① ジュリー・アプレイザル

必ずクリティークを受けます。これが最も重要な情報源です。最初に項目別の配点を尋ねます。(第二図参照) どこに今後の改善余地があるかを見るためです。審査員のコメントを細大漏らさずメモを取り必ず実行することにしています。私は、よほどでない限り反論はしない主義です。反論をしていると貴重な時間が無くなります。出来る限り沢山のコメントをもらい、その背景にある考え方を汲み取るようにしています。質問をする場合でも「さらに高得点を得るにはどこを改善すべきか」という一般的な質問にとどめています。

項目	内容	配点
1. トリートメント	1) タイトル・プラン	15
	2) 展開	15
	3) 独創性	5
2. 知識と研究	1) テーマ知識	15
	2) 郵趣知識	15
3. 状態と希少性	1) 状態	10
	2) 希少性	20
4. 展示技術	1) プレゼンテーション	5
	合計点	100

第二図:テーマティク配点表

クリティークは審査員の目にどう映っているかを知る上で大切です。一般に「自分の目にどう映るか」「参観者の目にどう映るか」を意識しがちです。しかしコンペで勝つには「審査員の目にどう映るか」が最も大切です。

少し具体的な事例を挙げましょう。

・「このダイプルーフは、アーティスト・ダイプルーフで希少性は低い。セピア・ダイプルーフはないのか」と言われたら、これを記録してセピア・ダイプルーフを探します。不思議ですが、求めると探すものは、意外と出てくるものです。その喜びを味わえるのも郵趣の魅力です。

・「このワーグナーのステーションナリーは、もっと希少なバイエルンのものがあるはずだ」と言われて、実はあまり値が張るので手を出していなかったのが「ギクリ」とすることもありました。こうなると思い切って貯金をはたいて買うことになります。

・「この消印は、本来のストーリーとかけ離れすぎていないか」との指摘を受けたこともあります。確かにテーマチック作品では、ストーリーに枝葉がついて、ベーターヴェンとの関係が希薄なマテリアルを用いることになりがちです。特にそのマテリアルが自慢で見せたいとか、スペース・フィラーとして用いたいなどの誘惑に駆られる場合です。そうした時は、もっと直接的な関係のあるマテリアルを探るか、ストーリー展開の仕方を変えて対応します。

・「ここは原画が、リーフが続いているので両方の良さがうち打ち消される。リーフの位置を変えてはどうか」と配置の問題を指摘されたこともあります。私の作品は、基本的に時系列なので、順序が決まっています。したがって若干意に反することですが、ここは素直に順序を変えたところ、確かにフレーム内の配置バランスが良くなった気がします。

人間は、どうしても自分の好みや意見にこだわりがちですが、素直に他人の意見を受け入れる姿勢も大切と思います。

② セミナー

セミナーには必ず出席します。一般に国際展のセミナーは、審査員または審査員のアプレンティスを対象にしていますから、これも審査員の「ものの考え方」を理解する絶好のチャンスです。洛陽のレーゲ氏、東京のヒメネス氏、リオのモレノ氏などの名講義は大変役立ちました。いつも USB メモリーを用意して、その場でプレゼンテーションのコピーを頂くよう心掛けています。セミナーでも、2014 年ヘルストローム氏のイニシアティブでスウェーデンの Postiljonen の後援で開かれた第 3 回メルモ・国際セミナーのように大規模なセミナーにも参加しました。伝統郵趣、郵便史の専門家の講義を通じて最先端の考え方を学びました。

③ 優秀作品の観察

国際展は、金賞・大金賞のハイレベルの作品を仔細に観察する絶好のチャンスです。また出展者から CD を入手し、後日、相手の作品を鑑賞するのも有益です。

III. 現状分析

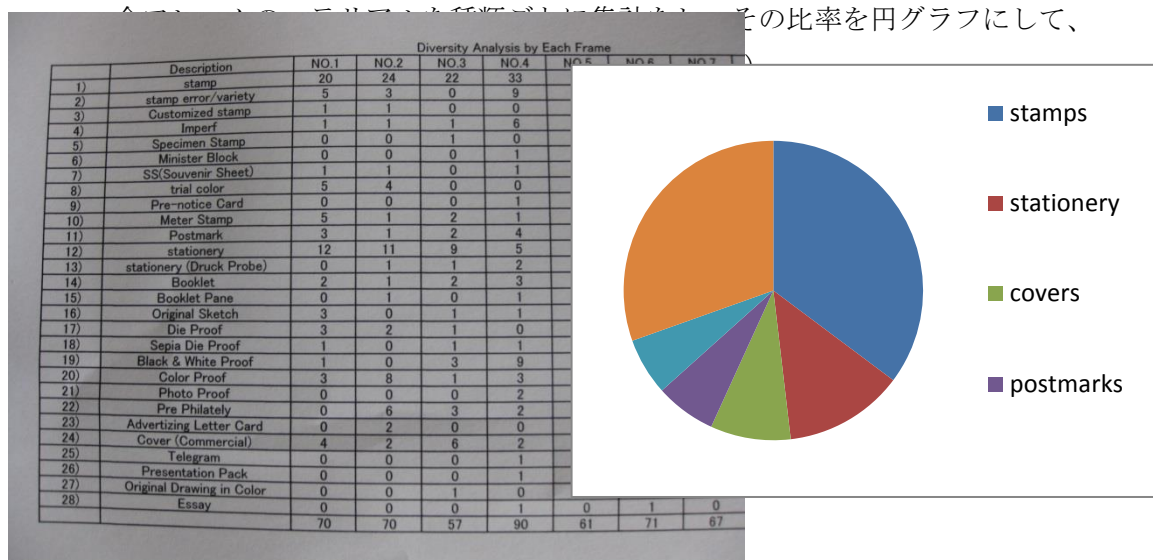
自作の問題点を客観的に認識する必要があります。それには 3 つの分析方法を用いて問題点を俯瞰的に捉えるようにしています。

① 多様性分析

これはどの程度多様なマテリアルを用いたかを知る手法です。テーマチックでは如何に多様なマテリアルを用いるかが重要です。原画、ダイプルーフ、カラー・トライアル、切手、無目打、切手帳、見本切手、エラー、実郵便、プレフィラテリー、ステーションナリー、記念印など多様なものをバランスよくも使いねばなりません。私の作品では、分類方法にもよりますが、分類で 28 種類もの郵趣的マテリアルを用いています。

単純な方法ですが、縦軸にマテリアルの種類を書き込み、横軸にフレームご

とにリーフ番号を書き込んで、リーフ毎に種類別に何点あるかを記入します。



第三図 多様性分析表と構成比グラフ

初期の作品では切手比率が 60-70%と高めでしたが、その後切手以外のマテリアルを増やし、今では 35%位にまで下がっています。作品全体で特定の種類に偏りが無いのみならず、リーフ毎にもチェックしています。例えば、あるリーフは、切手だけ或いはステーショナリーだけで構成されていると、バランス感に欠けるとの印象を与えます。どの比率が良いかの絶対的基準はありませんが、特定の種類に偏っていないかを判断するには有力な分析ツールです。

② 希少性分析

これはリーフ毎の希少度がどの程度かを判断する手法です。テーマティックの希少性の配点は伝統郵趣と同様の 20 点です。テーマティックでも、究極は希少性が重視されます。とりわけ誰にでも一目で分かる希少性の高いマテリアルを用いると印象が強いために、他のものも良く見える後光効果 (Halo Effect) が出てきます。

希少性は値段ではないという議論を良く聞きます。確かに記念印、使用済みのステーショナリーなど値段は安いですが、入手難なものがあるからです。しかし希少性は、需給関係で決まるので基本的に値段に反映されています。

私の分析方法は、きわめて簡単です。リーフ毎に投入した大よその金額を記入して一覧表を作り分析しています。これを見ますと、どのリーフの希少性が高いか、どのリーフが弱点かが一目瞭然となります。これを参考にして、弱いリーフをどう強化するかを考えることにしています。

ある重要なテーマを取り上げたリーフに希少なマテリアルが存在しないケ

ースもあります。その時には、そのテーマを取り下げて、良い物が使えるテーマに切り換えることにしています。希少性が鍵なので、ストーリーを損ねない範囲で、出来る限り良いマテリアルを用います。

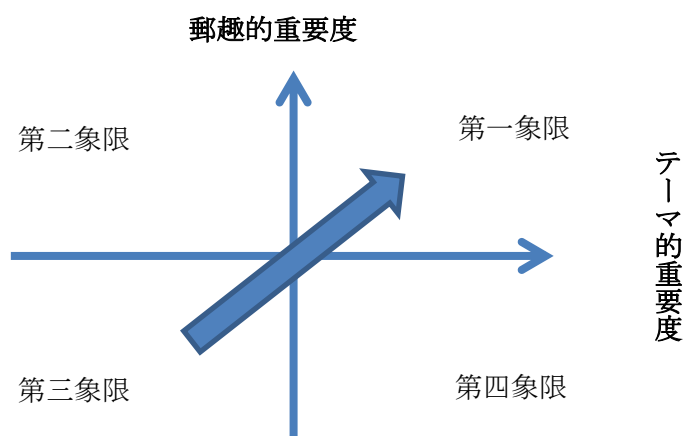
前 FIP テーマティック部門委員長のレーゲさんは、希少性で 20 点を与えるレベルは「トップクラスの超希少品が作品全体にあり、“格別のトップクラスの超希少品” がいくつか含まれること」と発言しております。つまりハイレベルになると、勝負の決め手は希少性であることが歴然としています。

③ 重要度分析(マトリックス)

これは重要度の高いマテリアルが用いられているかを分析する手法です。マテリアルの重要度は、郵趣的側面とテーマ的側面とがあります。

郵趣的重要度とは、真正度プラス希少度です。真正度とは、実郵便を例にとると、純然たるコマーシャル・カバーの意味です。換言すれば、郵趣家向けに、あるいは郵趣家が作ったフィラテリック・カバーではないという意味です。切手、消印、ステーションナリー等コアな郵趣品は真正度が高く、郵趣家への販売を営利目的に発行された切手(いわゆる *dubious items*) は、真正度も希少度も低くなります。さらに下がるとボーダーライン・アイテムとなり、最後に完全に私的なもの(絵葉書等)は郵趣的重要度がマイナスとなります。

一方、テーマ的重要度とは、果してそのマテリアルが、テーマと直接的に深い関係があるかどうかで判断します。切手のデザイン、発行目的など明らかにテーマと直接的な関係の深いものは重要度が高いこととなります。



第四図 重要度分析図

添付(第四図)をご覧ください。縦軸は、郵趣的重要度を示し、横軸はテーマ的重要度を示します。それぞれ矢印の方向へ行くほど重要度は上がり、反対

の方向へ行くと下がります。あるマテリアルの重要度を見るには、どこに象限に入るかで判定できます。

第①象限：ここに入るものは郵趣的にもテーマ的にも重要度が高いのでベストです。(例：ブラームス肖像画：図 3、WIPA 実通 FDC:図 5)
テーマ的には、主題と直接的に関係があり、郵趣的に優れたもの(肖像入りの原画、デッサン、ダイプルーフ、実通便、切手、ステーションナリーなど)がこの象限に入ります。非実通 FDC、MC、郵趣家向け切手 (dubious item) などの重要度は低くなります。

第②象限：ここに入るものは、郵趣的には優れていますが、テーマとの関係が直接的でないために意外性があり、「納得性」のある説明が必要になります。(例：ヒンデンブルグ号事故カバー：図 2、アウガルテンの陶器切手：図 11) ここで展示者は、如何にテーマに関する深い研究をしたかを示すことになります。

第③象限に入るものは、郵趣的にもテーマ的にも重要性はなく論外です。

第④象限に入るものは、テーマ的に重要ですが、郵趣的重要度が低い価値のないものを用いる場合です。郵趣家向けの切手 (dubious items) を多用している事例はその例です。この種の切手は、テーマ的に非常に重要な場合に限り、ごく例外的に用いています。

常にこのマトリックスを念頭に入れてマテリアルを手当し、展示に用いるかどうかを検討しています。可能な限り第四図の太い矢印の先端を目指すマテリアルを用います。

IV. 戦術

1) 「資源の一挙投入」(資源の逐次投入は避ける)

ワンランクアップを目指すには、目立ったインパクトのあるマテリアルを取り込む戦術が大切です。インパクトがあるとは、「郵趣家ならだれでも一目で希少品と分かるものを投入する」ことです。毎回、細々としたもののみを取替えて似たような作品を出していると、評価レベルが定着してしまうリスクがあります。つまり戦争における兵力の逐次投入ではなく、一挙投入によりインパクトを与える作戦です。

第一図をご覧ください。2011年 90点から 2013年 95点へと一挙に 5点上がっています。作戦として「資源の逐次投入」ではなく「一挙投入」が功を奏したと思われる

ます。この2年間のブランクは、2012年4月～6月にかけてボンのベートーヴェン・ハウスで特別展示を行ったので FIP 世界展には出展できず、むしろ収集の専念したことが結果的に幸いました。この間、ヒンデンプルクの事故カバー、ブラームス、ゲーテの最終原画、マリア・テレジア公用便（プレフィラテリー）等十数点を購入し一挙に入れ替えました。これにより審査員に大幅に変わったとの印象を与えることに成功しました。

2) 「疑わしきは罰す」

審査員より疑問を提起されたマテリアルは、精査して問題ないと思われぬ限り一切用いないことにしています。刑法に「疑わしきは罰せず」という原則がありますが、私は、逆に「疑わしきは罰す」を原則としています。

例を挙げて説明しましょう。

・北朝鮮の水彩画の原画を用いたところ、ある審査員から首を傾げられました。案の定、ベートーヴェンを集めている友人から「同じ原画を入手したが、どちらが正しいのか」との質問がありました。購入したディーラーに問い合わせたところ「貴方のものは、第二の原画である。コンペで使用するのはい向に構わない」との意見でありましたが、原画が複数あることに疑問を感じたのでお蔵入りとしました。

・レピキュアージュ (repiquage) は、過ちを犯しやすい例です。レピキュアージュとは、ステーションナリーの発行後に私的に印刷を加えたものです。筆者も過去に何回かレピキュアージュを用いて審査員から首を横に振られた苦い経験を持っています。そうしたマテリアルは、一切用いないことにしています。市場に結構な値段で登場することもあり誤解を招きやすいマテリアルです。私的印刷でも、私的注文に応じて公的機関が印刷して発行した私的官製葉書（ドイツでは **Privatganzsachen** と呼称）は問題がありません。ドイツでは私的官製葉書のカタログが完備しているので容易に識別できます。それ以外は、慎重な調査が必要です。

・非実通 **FDC, MC** は一切用いない方針です。ハイレベルになるにつれ審査員の厳しさが増すからです。また郵趣家向けの切手 (**dubious items**) は、重要なテーマに正統なマテリアルが無い時に、ごく例外的に用いる以外は、原則使用しません。

3) マテリアルの希少性を徹底的に追求

テーマティックでは、フィラテリックな要素は 45%に過ぎません。残りの 55%はトリートメント、テーマ研究、プレゼンテーションなどで点数を稼げます。とくに初級レベルでは、非郵趣的要素で点を稼ぐ余地がたっぷりあるので、いたずらにマテリア

ルに力を入れる必要はありません。

しかし上級レベルとなると、非郵趣的要素では点数が満点に近くなり、改善余地は希少性のみが残されます。戦術的には、希少性追求が最重要となります。コンペは、究極は希少性の競争となります。

希少性を高めるために、あらゆる工夫をしています。例えば、実郵便では、ファンシー・キャンセル(図8)、市街電車便(図9)、仕向地(図10)、気送管便、捕虜郵便、軍事船舶郵便、バロンモンテ(図12)、カタパルト便(図13)など可能な限り希少なマテリアルを使用しています。

良い物を集めるには、オークションハウスに頼るほかありません。しかし、有力なオークションハウスに求めるものが出るとは限りません。幅広くオークションハウスと接触する必要があります。最近では、多くのオークション情報をまとめて提供するサイトがありますので、それを利用して検索すると便利です。

(例：<https://www.philasearch.com/> <http://www.stampcircuit.com/>
<http://prestige.delcampe.net/page/main/action.home.language.E.html>)

V. マテリアル事例集

マテリアルの代表的使用例を、テーマとの意外な関係と希少性を中心に解説します。

図1 プレフィラテリー (マリア・テレジア)



マリア・テレジアの公用便（自署サイン入り）

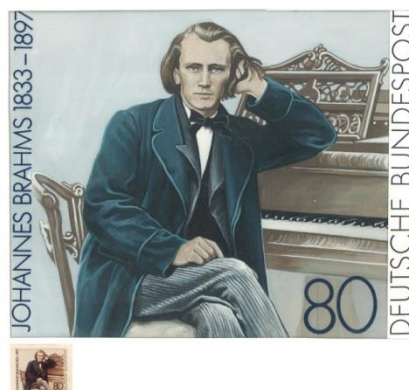
マテリアルの多様性を示すためにプレフィラテリーの代表的事例を用いました。ベートーヴェンの生涯には、4名の皇后・国王がオーストリアを統治していました。その中で皇后マリア・テレジアは、ハプスブルク家が権勢を極めた時期の最高権力者です。時代背景を表現する一手段として皇后自署入りの公用便を用いたものです。

図2 事故カバー（ヒンデンプルク）



ヒトラーはベートーヴェンをドイツ精神の体現者として崇拝していました。1937年ヒトラーの誕生日前夜に、フルトヴェングラーは「第九」指揮しました。これが後日、「ヒトラー誕生日の第九」として有名になり、芸術と政治の関係をめぐって物議を醸すこととなります。ヒトラーを強調するために彼の誕生記念シート（ドイツ帝国 Mi.646 Block 7）を用いたヒンデンプルク号の事故カバーを用いました。数ある事故カバーの中で、この1937年のレイクハーストにおける事故カバーは、知名度抜群のマテリアルです。上級を狙うなら、こうした郵趣家ならだれもが分かる希少品がいくつかほしいところです。

図3 ブラームス最終原画（水彩画）



ブラームスは、ベートーヴェンの影響を大きく受けており、彼の交響曲第一番は「ベートーヴェンの第十交響曲」と称されるほどでした。ブラームスを表現するために一枚しかない希少な最終原画（ドイツ Mi.1177）（Elisabeth von Janota-Bzowski 画の水彩画）を用いています。私作品では、カラー原画2枚、スケッチ6枚用いています。上級作品にはぜひとも原画が、2-3枚程度欲しいところです。

図4 ベートーヴェン肖像画の段階的ダイプルーフ



画家ヴァルトミュラーによるベートーヴェンの肖像画に段階別ダイプルーフを用いました。この例では、第一回目の彫刻で画家の名前のイニシャルを誤った（251）ため、第二回目の彫刻をやり直したもので、第二段階（399）、第三段階（439）、そして最終の第四段階（537）のプルーフを用いております。一般に切手の製造過程から生まれたものは高い評価が得られます。

図5 WIPA FDC カバー



著名な画家シュヴィントは、ベートーヴェンの“幻想合唱曲” (op.80) にインスピレーションを得て、その4楽章に合わせて「シンフォニー」と言う4部作の絵を描きました。この切手はその最終楽章ハネムーンへの出発の場面です。1933年のウィーン国際切手展で発行されたシート(発行1万枚限定)と単片2種(上:着色繊維漉込紙、下:白紙)があり、それらをすべて貼付した実通FDCです。

図6 公用ペニーブラックとエッセイ



公用切手

切手上部の拡大図

エッセイ

1945年ボンにおけるベートーヴェン銅像の除幕式に英国女王ヴィクトリアと夫君アルバート公が出席しました。この異例ともいえる出来事は、夫君がドイツの公国出身の貴族であったことが影響しています。これを表現するために公用のペニーブラックとアルバート公のエッセイを使用しました。前者は、上部左右のコーナーにVR (Victoria Regina の略) があり、1840年に公的使用を目的に発行されましたが、事情があり3年後に使用中止となりました。大半は廃棄処分となりわずか21シート及びキャンセルの実験に用いられたものがわずかに残っている希少品です。実験用は、消印を試すために一旦押印後に拭き取ったものです。

一方、後者は、通称エッセイと呼ばれていますが、本来は印刷技術を示すために制作された切手風のサンプルです。数が少ないので希少品として取引されています。

図7 様々なエラー



i) ストラヴィンスキー(目打エラー)



ii) ルービンシュタイン

(上:正常 下:図案ずれ、刷色なし)



iii)クララ・シューマン(右：髪部分印刷漏れ)

ルービンシュタイン

図8 ファンシー・キャンセル



ベートーヴェンは、ウィーン郊外の森を好んで散歩し作曲のインスピレーションを得ていました。森に関する多くの名言を残しています。森の木々を描くのに木の葉のデザインのファンシー・キャンセルを用いました。ファンシー・キャンセルは、グレードが上級から下級までありますが、19世紀の極美カバーが最上級品です。このカバーは1881年3月9日ブルックリンの消印付でヴァーモントに送られた実郵便です。希少性からも最上級に属するカバーです。

図9 市街電車便



ベートーヴェンは、16歳の時にウィーンへ行きモーツァルトに会ったとされています。

す。そのストーリーを描くために、モーツァルト切手を貼った 1942 年の適正レートの実通カバーを用いました。一見ありふれたカバーのように見えますが、実は、消印に電車便（Strassenbahnpost）とあり珍しい事例です。これは、1922 年から 1943 年まで、ドイツのハンブルグ市のみで提供された配達時間短縮サービスです。市街電車に装着された郵便箱に投函（1942 年当時の追加料金 5pf）すると中央集配所で集められて直ちに配達に回るので遠隔地だと 1 日～2 日間短縮されたといわれています。モーツァルト・カバーは沢山ありますが、希少な使用例を用いて、全体のレベルアップを図ったものです。

図 10 珍しい仕向地のカバー（コスタリカ）



ベートーヴェンのライフ・マスクを用いた適正料金の書留実通カバーです。一件ありふれたように見えますが、仕向地がコスタリカなので珍しい使用例です。同じ切手を用いても、探索を重ねて希少で真正度の高いカバーを探す努力が求められます。

図 11 磁器切手



これは 2014 年にオーストリアが発行したアウガルテンの磁器切手です。アウガルテンは、18 世紀末からの有名なコンサート・ホールで、ベートーヴェン自身のピアノ伴奏で“クロイツェル・ソナタ”が初演された会場です。現在、その当時の建物がそのまま保存されアウガルテン磁器会社が用いています。かねがねアウガルテンを示す郵趣品を探していたと

ころ、この切手が発行されたので使用しました。素材が珍しく、一見分からない意外な関係があり、目立つ切手なのでテーマ知識を示す絶好のチャンスとなりました。

図 12 バロンモンテ



1870-71年 普仏戦争でパリが包囲された時、通信を確保するために考案された有人・無人の気球郵便がバロンモンテです。全部で67基の気球が飛び、それぞれに有名な政治家（ワシントン、ガリバルディ）、文学者（ジョルジュ・サンド、ヴィクトル・ユーゴ）、科学者（ラボアジエ、ニュートン）発明家（フルトン、ゲーテンベルグ）などの名前が付けられていたので、テーマチックに利用できます。このカバーは、ヴィクトル・ユーゴ号に搭載されたものです。ベートーヴェン時代の新思潮であるロマンティシズムの旗手としてユーゴを挙げた時に用いたものです。ある審査員から「この利用方法は素晴らしい」とお褒めの言葉を頂きました

図 13 カタパルト・メール



ワーグナーは、「神、モーツァルト、そしてベートーヴェンを信奉する」と言っており、ベ

ートーヴェンへの熱狂的な傾倒ぶりで知られていました。彼はベートーヴェンにインスピレーションを得て、音楽・演劇・舞踊・絵画・詩の総合芸術として“楽劇”というコンセプトを生み出します。これを表現するのに楽劇シリーズの切手を複数用いたカタパルト・メールの実通書留・速達カバーを用いました。カタパルトは、客船にカタパルトを搭載し、試行機より射出して、郵便物を約一日早く届けようという方法で、このカバーは1934年にニューヨークでオイローパ号の船上で投函され、カタパルト機でサザンプトンへ、そこから鉄道ロンドンへ、次いで空路ベルリンへ、そして最終目的地のランクヴィッツに運ばれた希少価値ある事例です。

図 14 私的官製葉書



私的官製葉書（Privatganzsachen）の一例。ミュンヘン・ワーグナー音楽祭記念で発行された7枚セット（カタログ値段 5,600 ユーロ）の一枚ジークフリードの場面です。現実には、ほとんど市場に登場せず、登場してもカタログの2倍以上で取引されています。

図 15 切手帳



ベートーヴェン 8pf/10 枚、カント 10pf/8 枚を用いた切手帳です。全部で3種類あります。

3種合計のカタログ値段は、25,000 ユーロの高額品です。最初は、表紙のみを展示していたのですが、ある審査員から「完全な切手帳を用いなさい」と厳しく言われて揃えた希少品です。

おわりに

振り返って、成功した理由をまとめてみますと、第一に、テーマの選択が良かったこと、第二に、インパクトある希少マテリアルを出来る限り用いたこと、第三に、審査員の目を徹底的に意識したことだと思います。

テーマティックの手法は、時代と共に、次々と変化し発展しております。現在が「第四世代」（ヘルストローム氏）と言われていますが、今後「第五世代」「第六世代」が生まれることが予想されます。テーマティックを追いかける者は、常に新しい潮流を敏感に取り入れていかねばならないと思います。

以上